

# 草の根・人間の安全保障無償資金協力

「カスング県カトペ協同組合養蜂設備整備計画」

署名式

2018年12月11日



写真：（左から）ズル・リロングウェ司教区社会委員長，カンドジェ・カスング県農業開発事務所長，柳沢大使，ムサヤ・カトペ協同組合長

2018年12月11日、柳沢香枝大使とズル・リロングウェ司教区社会委員長は、「カスング県カトペ協同組合養蜂設備整備計画」に関する、草の根・人間の安全保障無償資金協力贈与契約を締結しました。本贈与契約署名式は在マラウイ日本国大使館で行われ、カンドジェ・カスング県農業開発事務所長も列席しました。

マラウイは貧困、人口増加、持続可能なエネルギー不足、環境破壊など様々な問題に直面していますが、カスング国立公園周辺に住む人々も同様の問題を抱えており、収入源確保や家庭使用のため、住民は公園内で木の伐採を続けています。このような行動は公園の生態系に影響を及ぼし、人間と動物の共生が脅かされている状況です。この状況を打開するため、リロングウェ司教区マラウイ・カトリック開発委員会は農業、森林保全、養蜂を含む統合的なアプローチを確立し、カスング国立公園周辺に住む人々を支援してきました。本事業は、その支援を補強するものです。供与金64,243米ドルを活用し、リロングウェ司教区マラウイ・カトリック開発委員会が養蜂加工センター及び関連器具を整備することで、カトペ協同組合がより効率的かつ衛生的に蜂蜜を生産できるようになることが期待されます。

式典で柳沢大使は、日本政府は第三次マラウイ成長開発戦略に基づいた支援を実施しており、持続可能な方法で農業の多様化を進めることは重要であると述べ、本事業の成功がコミュニティの人々の生活を向上させ、自立心を促すきっかけとなることを期待したいと強調しました。